

ウナギ及びイセエビの種苗生産技術の開発

【129（179）百万円】

対策のポイント

ウナギ・イセエビの安定的な種苗生産技術の開発のため、ウナギ良質卵の生産技術を開発するとともに、ウナギ及びイセエビの幼生を正常に育成するための餌料・環境条件の解明を実施します。

（ウナギ・イセエビについて）

我が国のウナギ生産量の97%が養殖によりますが、その種苗であるシラスウナギは100%を天然に依存しています。また、イセエビについても全て天然資源の漁獲によるものです。

政策目標

ウナギ及びイセエビの水産資源の確保と水産経営の安定化

<内容>

1. 良質卵生産のための判別技術及び親魚の催熟技術の開発

ウナギの良質な卵の判別方法を開発するとともに、良質な卵が得られる親魚の催熟条件を解明します。

2. 幼生の正常な育成のための最適餌料の開発

ウナギ・イセエビ幼生の消化管内容物のDNA判別により幼生の餌を解明し、生残率向上のための最適餌料を明らかにします。

3. 幼生の生残率に及ぼす飼育環境の影響解明及び最適化

水質、物理環境等の環境要因がウナギ・イセエビ幼生の生残率に及ぼす影響を解明し、最適飼育環境の条件を明らかにします。

<実施主体等>

実施主体 独立行政法人、都道府県、大学、民間等

実施期間 平成17年度～平成20年度

[担当課：農林水産技術会議事務局研究開発課（03-3502-0536（直））]

ウナギ及びイセエビの種苗生産技術の開発

— 幼生の生残率決定要因の解明と安定的飼育技術の開発 —

〔目標〕

種苗の安定確保が困難であるウナギ及びイセエビについて、幼生時の生残率を飛躍的に向上、安定した種苗生産技術を開発

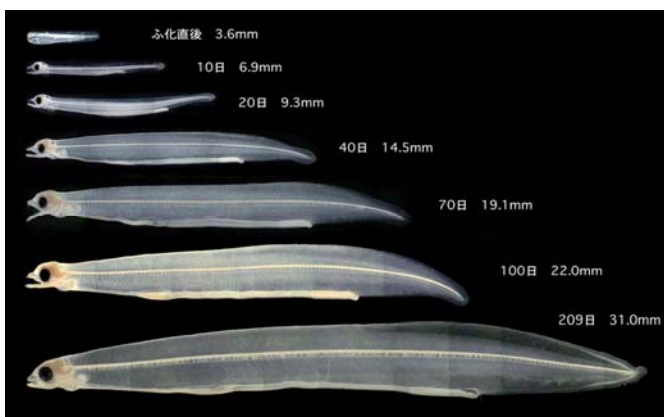
〔主な研究内容〕

質の良い仔稚魚は良い親魚から (ウナギ)

良い卵と精子を得るため成熟のメカニズムを解明し、良質な親魚養成技術を開発



抱卵雌ウナギと受精卵



ウナギレプトケファルス幼生の発育

幼生の生残率向上と健全育成 (ウナギ・イセエビ)

適正な飼育環境、栄養生理、摂餌生態を解明し、幼生の生残率を向上させ健全に育成する技術を開発



イセエビフィロソーマ幼生



稚エビ

＜現状＞

ウナギでは100日齢までの生残率が0～3%

イセエビでは稚エビまでの生残率が0～5%

〔期待される効果・波及効果〕

- ・ウナギの幼生及びイセエビの稚エビの生残率を10倍程度に向上させ、種苗の安定生産に目処
- ・国際的に需要の高い両種の研究をリード